

あとがき

本事業は、平成17年1月にスタートをし、当初は、その直前まで京都大学医学部長の本庶先生が事業総括を務められたが、内閣府の総合科学技術会議議員に就任されることから事業総括を退任され、その後を引き継ぎ、平成18年8月から事業総括を務めさせていただいた。時期的に本事業がフェーズⅠの中間評価を迎えるところで、JSTからは研究中心から事業への展開をするよう強い要請があり、その後のフェーズⅡを進めるにあたり実業界出身の私にその実現への役割があったと認識しています。

平成21年12月末で、5年間の本事業を終了しました。その間、今後の医療技術のイノベーションにつながる様々なプロトタイプの研究開発に成功し、その中でも、各グループからJST他の次のプログラムを獲得し、今後の実用化に期待のできる成果を上げることができました。なかでも、「SPR蛍光測定法による疾患マーカーの測定装置」、「低酸素特異的融合タンパク質を用いた分子イメージングプローブ」、「次世代DDS材料ラクトソーム」の開発については、実用化への期待が確かな成果でありました。

ここに至ることができた成功要因について、4点触れておきます。

- ① やはり京都大学の先生方がお持ちのポテンシャルの高さを掲げなければなりません。我々が取り組んだテーマは、医療技術開発でも世界の最先端を競う分野であり、ややもすると、地域結集事業で想定されていた目的とは異質な部分があったのではないかと感じることもありました。多くの学会発表につながったように、高いレベルでの研究を成し遂げられた先生方、また、雇用研究員の皆さんに敬意を表します。
- ② 企業戦略に合致するテーマで、良好な産学連携体制を構築できたことであります。特に高い成果を挙げることであったテーマは、大学のシーズからスタートしたのではなく、企業として実現させたいテーマに対して企業主導で取り組み、それを支援する能力・経験のある先生が協力をされて、産学連携の実を挙げることであります。
- ③ 医学研究科の先生方と工学研究科の先生方・研究員、企業の研究員が一同に会し、医工連携、産学連携のディスカッションできたことであります。特に、医工連携による新しい材料の開発に意欲的な医学研究科の先生と、基礎医学のベースをお持ちの工学系の先生が核となり、この場をリードしていただいたことで、議論が正しい方向に導かれるとともに、若手研究者をはじめとする各参加者に貴重な刺激を与える場となりました。
- ④ 目利きの重要性を改めて認識したことであります。ヒトの体に新たに開発した物質を入れるためには、治験が不可欠であります。この治験に関しては、経験・能力をお持ちの方は我が国ではまだまだ数が少ない現実があります。幸いにも創薬開発の経験豊かな人材を推進本部に得ることができ、特にイメージング・ターゲティングの材料開発において、治験や最先端の創薬研究開発現場を踏まえた多くの貴重なアドバイスを行うことができました。

この間、参画研究者、参画企業の御努力のおかげで、本事業の目的である「ナノメディシンの拠点形成」につながる数多くの研究開発成果を得ることができました。本事業終了後は、京都市を中心にナノメディシンの拠点である地域COEの構築に取り組んでいきます。今後、本事業の研究開発成果を活用・発展させ、ナノメディシンの一大研究開発拠点としての地域COEが構築され、新たな産業の創成と研究機関、関連企業の集積が図られることを期待しています。

本プロジェクトでは、JSTの御支援により、事業関係者に多くの経験を積ませていただく機会を御提供いただきました。改めて、本事業を御支援いただいた、文部科学省、JST、京都市、関係各位に心より御礼を申し上げます。

事業総括 川辺泰嗣（株式会社島津製作所顧問）